2025 年度 若手・女性研究者奨励金 レポート

研究課題	**認知症看護における Formal caregiver burden の精神的負担－介護保険施設看護師を対象とした実態調査と精神的負担の関連要因－**
キーワード	①認知症看護、②精神的負担、③介護保険施設

研究者の所属・氏名等

フリガナ 氏　名	セオ　ジョンミ 徐　廷美
配付時の所属先・職位等 （令和７年４月１日現在）	東京医療学院大学　保健医療学部　看護学科　助教
現在の所属先・職位等	駒沢女子大学　看護学部　看護学科　講師
プロフィール	社会人経験を経て看護師となり、その後さらに看護を深く学びたいと思い、東京大学大学院で修士課程を修了しました。その後は、オーストラリアで看護師資格を取得後、大学院でも学び、日本と海外の看護学教育、看護研究、看護の臨床現場の違いなどを体験することで、日本の良い点も改善が必要な点も見えてきました。帰国後は、老年看護学、在宅看護学分野で、認知症ケアの質の確保について研究を進めています。高齢化がますます深刻な中、高齢者が望みをもって暮らせる社会づくりに貢献したいと考えています。

1. 研究の概要

介護施設で認知症ケアにあたる看護職の精神的負担の実態を正確に捉えるために、認知症ケアに特異的な尺度で測定することによって、認知症ケアに携わる専門職(Formal caregiver)の精神的負担（burden）の実態を記述し、関連要因の探索を行うことで、精神的負担の軽減を図るための対策に役立てる資料を得た。

2. 研究の動機、目的

高齢化に伴い認知症患者は増加しており、認知症基本法の理念である適切な医療保健福祉サービスを切れ目なく提供することが重要になっている。そのため介護保険施設で認知症ケアにあたる看護職の役割がますます重要視されている。先行研究から、認知症ケアを実践する専門職が精神的負担を抱えると、バーンアウトにつながりやすく、休職や離職に至ることもある。また、精神的負担を抱えることで、認知症のケアを怠ったり、不適切なケアや虐待をする可能性もあることがわかっている。認知症ケアの専門職のメンタルヘルスを維持し、高齢者ケア業界の人材流出を防ぐとともに、認知症の人の尊厳が守られるような質の高いケアを確保するためにも、ケア実践者の看護職の精神的負担に注目し、理解を示していくことが重要だと考え、本研究に着手することとした。

本研究の目的は、介護施設の認知症ケア実践者の精神的負担の実態把握と関連要因の探索である。

3. 研究の結果

研究者が本研究に取り掛かる以前に開発した SDCS（The Strain in Dementia Care Scale）日本語版を用いて、全国の介護保険施設の看護職を対象に 2025 年 7 月～9 月にかけて Web 質問紙調査を行った。319 名から回答を得て、精神的負担の程度を記述し、さらに精神的負担に関連する要因について、重回帰分析を用いて探索した。

結果として、参加者の 82.1%が介護老人保健施設に勤務する女性の正看護師で、看護師歴は 20 年以上が 73.4%と多かった。半数の看護師が夜勤を行っており、毎日暴言を聞くと答えた看護職は 36.1%、毎日暴力を受けていると答えた看護職は 28.5%であり、認知症ケアの現場の過酷さがうかがえた。SDCS 日本語版の結果から、看護職は認知症ケアの現場で、対立するニーズのバランスをとることに苦慮しており、また意思疎通ができないことで、対象者を理解するのが難しいことに苦悩していた。また、認知症看護実践者の精神的負担の関連要因としては、夜勤の程度、寝たきり入所者の割合、看護資格（正看護師・准看護師）などが関連しており、業務負荷や教育によって精神的負担に影響が出ていることが分かった。

4. 研究者としてのこれからの展望

今後は、引き続き介護施設の専門職のメンタルヘルス改善のための研究を行っていくとともに、訪問看護師のストレスや負担感にも焦点を当てていくことを計画している。

また、認知症の人が、認知症になっても社会の中で活躍し、自分らしく生きていけるよう、看護で何ができるかを考えていきたいと考えている。世界的にも少子高齢化が急速に進む日本で、高齢者が社会の一員として存在を認められ生き生きと暮らしていけるための研究を行っていきたい。

研究者として、当事者や社会に貢献できることは何かを常に考えながら研究活動を行っていくことが大切だと考えている。

5. 支援者（寄付企業等や社会一般）等へのメッセージ

このたびは、奨励金をいただきまして誠にありがとうございました。様々な事情で、研究活動はますます遂行が難しくなっている状況がありますが、金銭面での潤沢な支援をいただき、その点で心配することなく、研究活動に打ち込むことができました。

今回の研究で、認知症ケアを行う人々がもつ精神的負担を少しでも緩和して、心理的な安全性や、認知症ケアへの充実感や満足感を持ってもらうための準備研究として貴重な資料を得ることができました。それにより認知症の人が介護施設で充実した生活を送るために、わずかでも貢献できていればと考えています。

研究を重ねていくごとに、研究の手法について学びを深めることができ、本来明らかにしたいところに焦点化ができるようになってくると感じました。奨励金を授与し、貴重な研究の機会をいただけたことに改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

以下は、Web 質問紙調査を行った際の最初にアクセスするページです。

